

第 366 回研究報告会（2024 年 4 月 15 日）

『生かされて生きる』人間における他者への貢献性—他者を『生かし』他者に『生かされる』べき道徳法則—

関本 克良（人文学部教授）

天理大学建学の精神に基づく「他者への貢献性」とは人間がお互いに「生かされて生きる」存在からくる道徳法則から生じている。この「生かされて生きる」ことを人間の原理、つまり人間の道徳法則として、人間は他者によって生かされ、同時に他者を生かすべきであると主張する妥当性について検討した。この命題を論証する手順として、まず、人間が「生かされて生きる」存在であることを澤井義次『天理教教義学研究：生の根源的意味の探究』から導出した。次に、古代ギリシャの正義論であり、モノの「正しさ」を確定する本性法則である「ディケー」を採用し、「生かされて生きる」ことが人間にとっての自然の姿であり本性（Nature）であるとするならば、他者を生かし、同時に、他者から生かされること人間にとって「正しい」ことであり、道徳法則になることを主張した。

第 367 回研究報告会（2024 年 5 月 31 日）

「法隆寺梵本心経並尊勝陀羅尼とネパール古代碑文の比較研究—文字形態の比較的地域から—」

成田 道広（人文学部非常勤講師）

本報告では、法隆寺梵本心経並尊勝陀羅尼（以下、法隆寺梵文貝葉）の文字形態に注目し、ネパール碑文の文字との比較から年代特定の再考を試みた。

法隆寺梵文貝葉は、最古層の心経写本としてこれまで学界の注目を集めてきたが、その年代特定においては、様々な系統に属する貝葉や、異なった地域で発見された貝葉や碑文などの文字と比較されてきた。

そこで、法隆寺梵文貝葉の文字とほぼ同系の文字であるネパール碑文の文字形態だけに注目し、年代ごとに配置したネパール碑文の文字と法隆寺梵文貝葉の文字を比較した。

その結果、法隆寺梵文貝葉の文字は 8 世紀前半のネパール碑文に用いられていることが判明した。それゆえ法隆寺梵文貝葉の年代に関しては、西暦 608 年か 609 年に小野妹子が隋から請来したという伝承は否定的となり、干瀉龍祥氏が提示した 8 世紀後半という最古年代を 8 世紀前半まで遡らせることが可能となった。

ネパール碑文の多くには年号が付されており、碑文の年代がほぼ特定されている。ネパール碑文の文字形態に関する体系的な研究は、法隆寺梵文貝葉との比較にとどまらず、インド系文字形態の比較研究全般において有用であると考えられる。本報告会はネパール碑文の資料的価値を確認する機会となった。

2024 年度公開教学講座のご案内

— 信仰に生きる『逸話篇』に学ぶ (10) —

2024 年度の公開教学講座は、以下の日程でオンライン配信いたします。

- 第 1 回 6 月 井上昭洋所長
172 話「前生のさんげ」
- 第 2 回 7 月 澤井真研究員
114 話「よう苦労して来た」
- 第 3 回 9 月 岡田正彦研究員
135 話「皆丸い心で」
- 第 4 回 10 月 八木三郎研究員
36 話「定めた心」
- 第 5 回 11 月 森洋明研究員
85 話「子供には重荷」
- 第 6 回 1 月 中西光一研究員
144 話「天に届く理」

グローバル天理

第 25 巻 第 7 号（通巻 295 号）

2024 年（令和 6 年）7 月 1 日発行

© Oyasato Institute for the Study of Religion
Tenri University

発行者 井上昭洋

編集発行 天理大学 おやさと研究所

〒 632-8510 奈良県天理市杣之内町 1050

TEL 0743-63-9080

FAX 0743-63-7255

URL <https://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/index.html>E-mail oyaken@sta.tenri-u.ac.jp

おやさと研究所（HP）



印刷 天理時報社

Printed in Japan